

☆授業改善に取り組む上で、まずはじめに

◇授業 DVD「新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料（高等学校版）」の冒頭部分「DVD を御覧になる前に」から

◇新学習指導要領の実施に当たって心掛けてほしいこと

1 「4 技能を総合的・統合的に指導する」

『総合的』とは、『バランスよく』という意味です。したがって、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことのいずれかの領域に偏った指導は適切ではありません。音声によるコミュニケーションも、文字によるコミュニケーションも、いずれも大切だということです。

また、『統合的』とは、『二つ以上の技能を関連させて』という意味です。具体的には、聞いたり読んだりしたことを基にして、話したり書いたりさせるといった活動が考えられます。

2 「言語活動を中心とした授業を行う」

授業には、生徒が英語に触れる機会（Exposure）と、英語を使ってコミュニケーションを図る機会（Experience）が豊富になければなりません。英語は外国語であり、しかも、日常生活の中でほぼ触れることのない、EFL という我が国の言語環境下で英語によるコミュニケーション能力を育成するためには、学校の授業がとても大きな役割を果たすこととなります。

3 「考える力を育成することを視野に入れる」

教科書をはじめ様々な教材を素材にして、言語活動を工夫し、事実や意見などを多様な観点から考察する力（Critical thinking ability）や、事実や意見を整理して伝える力（Logical thinking ability）の育成を図ることが必要です。

4 「自律した学習者を育成する」

せっかく学校で身に付けた英語力も、卒業してから生徒が学ぶことをやめてしまったら、さびついてしまいます。学校で身に付けた英語力を必要なときに有効活用できるようにするためには、生涯にわたり自律的に学び続ける学習者を育成する必要があります。そのために授業では、生徒に学ぶ方法を教え、学ぶ意欲や自信を与えなくてはなりません。